
再びの一步

reddresscoco

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
再びの一步

【Nコード】
N6022M

【作者名】
reddresscoco

【あらすじ】
放課後の教室で回想。

山吹の西日が差す。

子供たちを吐き出した薄暗い教室。はるか昔に自分も座ったはずの小さすぎる机たち。

彼らは平仮名の勉強を始めたばかり。

縦一列に整然と並んだ黒板消しの跡。ひどく丁寧な日付の文字。二面、前と後ろにある黒板のうち、後ろの黒板にはいくつかの掲示物が貼られていたが、微塵も乱れたところがない。

「相変わらずだね」

ケルウが、教室の入口に入ってすぐのところに寄りかかって立っていた教師に言った。西日は届かず、教師の顔は暗い。

「子供をこんな幾何学的な部屋に閉じ込めて。ルル」

「その呼び方はやめてちょうだい。いつの時代よ。」

「割と最近じゃあなかったかな？」

一人にやにやと机をなでながら言った。

「人生は長いわ。だから、ついこの前はかなり前よ。」

語尾のほうはもうそんなことはどうでもいい、といった風に、ぶっきらぼうだった。

「まあ、僕が袖振ひらひら虫だった頃に比べればあつという間だけだね。」

彼は前世を覚えている。彼曰く。

もちろん、ルルと呼ばれた教師が何の抵抗もなくそんな話を受け入れるはずはない。いまだって…。それでも彼の前では、信じないとは言わない。

西日が深くなる。伸びた日差しは壁により掛かっていた教師の顔をほんのりと照らす。短めにそろえられた髪は肩のあたりまで。そ

の教師の静かな美しさは、もしかした老いの、はかない気配に裏打ちされているのかもしれない。細いフレームの眼鏡の奥の目は、どんな悲しみにも揺らぐことがないという。

振袖ひらひら虫とは、蝶々のようなものだそうだ。

「本当にいるの？ その虫」

駅の出口からバスターミナルまで、傘の中に入れさせてもらった時に聞いた。

「いつか見せてあげる。まだ発見されてない。」

それだけ言って、彼は違うバス停にすたすたと歩いて行った。

あの頃は、彼らはまだ若かった。ルルとは、いつからかケルウが呼び出したのだった。規律、ルールを縮めたただだと言われても、この国では目立つ。

それから、何年過ぎただろう。腐れ縁とは、実際には腐りにくい。あるいは、縁に取り付いた、なにがしかの菌がじわじわと侵食して、やがては二つの者を丸ごと包んでしまうのかもしれない。

それでも、いいか。

カビの中には、ふわふわとした毛を出すものもいるという。そうすれば、誰かとぶつかったって、痛くないから。かつてのようにはならなくて済む。もう、この街から逃げ出さなくて、いい。

「それで、今日は何の用？」

沈みきった太陽は、今もどこかの町を照らしているのだろう。二人を照らすものは、星と満月と、緑色の非常灯だけだったが。

「いやなに、用ってことでもないんだが。」

そう言って、ルルの後ろを指差した。その視線はルルを抜け、非常灯の緑の光に染まった暗い廊下を抜け、湿った空気を湛える中庭を射ていた。

「もうすぐ……あと少し。……ほら、いまだ」

振り向けば、中庭がほのかに明るい。

「袖振ひらひら虫。君に見せようと思って」

ルルは思い切り窓を開けた。

自分の身長をゆうに超える大きさの、蝶。羽の色は桃色でほんのりと光っている。燐粉は粉雪のようなきらめき。

「きれい……」

言ってから、気づいた。そんな言葉が、世界のどこかにあったのだ。

「やっと、泣いた」

安堵のため息が漏れた。

「ゆらぎゆらめけ、ともしびよ」

ルルがはつと振り向いた。蝶の桃色の光が顔を照らしている。

「どうして、それを」

「昔君が持ってた小説の中で一番くたびれてたのをこっそり借りてばらばら読んだんだ。その本の、一番最後のページに、赤いしるしが付いてた。」

「そう……」

「最近はあるまり読んでないんだろう？」

「まあね。でも、また読んでみようかしら」

蝶が飛び立った。音もなく。

そっだ。この蝶ほどではないにしても、人生は長い……。

非常灯の中の人、いままさに扉の向こうへ、踏み出そうとしていた。

おわり。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6022m/>

再びの一步

2011年1月16日09時37分発行